

2018 スーパーGT 第3戦
鈴鹿サーキット
2018年5月19日(土)

予選 来場者: 20,000人 天候: 晴れ

2018 スーパーGT シリーズ第3戦は、例年の1,000キロから変更されて300キロレースとして開催される。au TOM'S 36号車は、チームメイトの1号車とともに予選Q2まで進出を果たしたが、ポーポシグというマシンのフロントが上下動してしまう症状に悩まされて8番手で決勝のスタートを切ることとなった。前回の富士では世界耐久選手権出場のためにお休みしていた中嶋一貴が今回復帰して、レギュラーコンビで参戦する。



- 午前中に行われた練習走行の段階からトムスのマシンがレクサス勢の1-2に位置して、予選に向けて期待が膨らんだ。
- Q1を中嶋一貴が担当した。タイヤを温めてアタックラップに入った時に1コーナーでかなりフロントが上下動して、思うようにタイムアップできなかったがQ1を突破。
- Q1のマシンに出た症状に対処、セットアップを若干変更してQ2に臨んだ。
- Q2の関口によるアタックラップで、よりひどい症状が出てしまって、コースオフ。大きくタイムロスして予選を終えて、8番グリッドとなった。

DRIVER	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
中嶋一貴	36	P7	1:45.613	P8	1:59.203
関口 雄飛					

天候	晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温: 20-18度C	路面温度: 36-28度C

中嶋 一貴 (36号車ドライバー)



「全体としては、クルマ的には悪くないです。練習走行から順調でしたけれど、予選の1コーナーで突然マシンの底が路面に当たってしまうほど上下動してしまいました。それでもなんとかタイムは出せたので、ギリギリでしたけれどQ2進出はできました。関口選手は、よりひどい症状だったみたいですね。決勝では、この問題が解消していることを望みます」

関口 雄飛 (36号車ドライバー)



「一貴さんからアドバイスを受けていたので、かなり手前からアクセルオフして1コーナーに進出したのですが、完全にマシンの底が路面と接触してしまってアウト側に跳ねるみたいにコースオフしてしまいました。セッションの最後にアタックをかけていたので、再度アタックをかけられずに終わってしまいました。不発の予選でした。全体的にマシンの調子は決して悪くないので、悔しいですね。決勝は追い上げます」

東條 力 (36号車エンジニア)



「アタックできずに予選が終わりました。予選のセットアップは、ギリギリのところを狙っているのですが、フロントの上下動は起こる可能性はあったのですが、予測を上回る症状が出てしまい残念です。状況を分析しています。1号車が4番手まで行っているのだから、36号車の方がハンディウエイトは軽いはずだから、問題が出なかったら、もっと上のグリッドを獲得できた可能性は高かったです。決勝のセットアップでは、このような症状は出ないと思います。決勝に強いトムスのパフォーマンスをお見せしたいです」

伊藤 大輔 (36号車チーム監督)



「Q1で一貴が頑張ってくれて、Q2に進出してくれました。その段階で1コーナーの進入時にクルマの前の部分が上下動してしまう現象が出ていました。それを対処してセットアップを変更して関口がQ2でアタックをかけたのですが、症状はよりひどくなってしまい、アタックできず。1コーナーの症状以外マシンの状態は良いので、燃料を多く積んだ決勝のセットアップではそれを改善し、追い上げてポイントゲットしたいですね」

舘 信秀 (総監督)



「練習走行の状況を見ていて、期待度が高かったので、残念の一言です。しかし、決勝では必ずや追い上げてくれることと信じています。決勝に強いトムスをお見せします。好調なホンダNSXをなんとかしてパスしたい」

LEXUS TEAM au TOM'S

2018 スーパーGT 第3戦
鈴鹿サーキット
2018年5月20日(日)

決勝 来場者: 33,000人 天候: 晴れ

2018 スーパーGT 第3戦の決勝レースは、例年夏の1,000キロレースからスケジュールと距離が変更されて300キロ、52周レースで行われた。予選で思わぬアタック不発に終わり、8番手スタートからの追い上げを目指した。ところが、セーフティカーランが終わった翌周に接触されてコースオフ。一時は実質クラスの最後尾まで順位を下げってしまった。セカンドスティント、レース終盤に36号車が鬼神の追い上げを見せ、大いにレースを盛り上げた。5位フィニッシュ。前戦に続いてポイントゲットした。



- 中嶋一貴がスタートドライバーを担当。序盤は、NSXの一角を攻め立てたが、パスならず。
- セーフティカーランの後にレース再開となった周に接触されてコースオフ、大きく順位を落としてしまった。
- 中嶋は29周を終えて関口雄飛にバトンタッチ。この時点で13位だった。
- 関口は、毎周のように順位をアップ。一気に2台のマシンをパスするという離れ業を披露しながら周回を重ねた。
- 最終ラップまで果敢に攻め続けた関口は、5位フィニッシュを果たした。

DRIVER	Car No.	Race Result / Fastest Lap	
中嶋一貴	36	P5	1:50.499
関口 雄飛			1:50.729
天候	晴れ/ドライ		
気温/路面温度	気温: 21-23度C	路面温度: 34-30度C	



中嶋 一貴 (36号車ドライバー)

「マシンはとても良い状態でした。しかし、序盤は抑えられてしまい、そしてセーフティカーランが終わって、ドスンと当てられて…。イン側のラインを閉めていたわけでは無いので「どうして?」という気持ちです。雄飛が終盤に接触してきたマシンを鮮やかにパスしてくれたので少しスキッとしました(笑)。この好調さを維持して次戦、タイへ臨みます」

関口 雄飛 (36号車ドライバー)

「トムスに加わって、やっとちゃんと仕事のできたレースでしたね。予選でアタックできずに、もやもやしていました。やはり、原因があったとしても単独でコースオフするのはドライバーの責任じゃないですか。予選では申し訳なかった分、決勝でチームに貢献できたかな。この調子で頑張ります」

東條 力 (36号車エンジニア)

「決勝のセットアップは良かったと思います。イロイロありましたけれど、それもレースですから受け入れないといけないものもあります。やはり、そこにいたことが結果として出る。予選の結果が良くて前を走っていれば、序盤で抑えられることもないし、接触されることも無かったかもしれないですから。今回は、雄飛の走りが光りましたね。ハンディウエイトもまだそれほどではないですから、十分に上位を狙えます。タイでは予選からガンガン行きたいと思います」

伊藤 大輔 (36号車チーム監督)

「本当に残念ですけど、一貴が接触された件は、最終的にはレーシングインシデントという裁定に従いました。しかし、あのコースオフは、本当に悔やまれます。マシンの調子がとても良かったことは、後半の雄飛の走りを見ていただければ明らかだった。彼が3戦目にして本来のパフォーマンスを発揮してくれて嬉しかった反面、もっと上の順位でフィニッシュできた可能性もあり、複雑な心境です。この悔しさを次戦にぶつけて上位を目指します」

舘 信秀 (総監督)

「一貴は、不完全燃焼だったみたいだ。一方の雄飛は、魅せてくれた。レースの醍醐味、素晴らしさ、面白さを一つに見せてくれた。ファンの皆さんも、大いに楽しんで頂けたことと思います。タラレバの話で恐縮ですが、一貴のコースオフがなければ、1号車よりも前、1位、2位のクルマとのバトルも見られたかもしれない…。今後も我がチームへの応援をよろしくお願いします」

※次戦は、6月30日-7月1日にタイのプリーラムにあるチャン・インターナショナルサーキットにおいて、シリーズ第4戦が開催されます。